東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 夏季、春季休暇中		
講義区分	授業科目名		
基礎分野	総合基礎② 保健体育	2 単位	30 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師としてだけでなく、社会人として必要な教養を身につけることを目的とする。
・現代日本の社会構造を知る。
・自分たちの志す分野のみでなく、他分野にも興味をもつことによって視野を広げ、将来に役立てる。

【講義概要】
・現代日本の社会問題に関心をもち考察する。
・社会との関わり方を考え、職業としての公益性を考慮した行動をとれるように考察・議論する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・授業は単元ごとにプリントを配布

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	運動が生体に与える影響	講義
2	運動とエネルギー代謝	講義
3	運動と骨・筋肉	講義
4	運動と呼吸・循環	講義
5	運動とホルモン	講義
6	外傷の発生要因	講義
7	外傷の予防対策	講義
8	メディカルチェック～評価と測定	講義
9	外傷予防に必要なコンディショニングの方法	講義
10	柔道における肩関節の外傷予防	講義
11	水泳における体幹の傷害予防	講義
12	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防	講義
13	サッカーにおける足関節の外傷予防	講義
14	成長期の外傷予防	講義
15	高齢者の外傷予防	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第1期、2期	今　田　正　人	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学③	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

ヒトは身体の内部や外部の環境情報を、感覚器系を介して受容し、神経系によって伝達・処理を行い、生体として反応している。このような神経・感覚器による全身の統合調節機構を形態学の面から学び理解する。

各自が資格試験を意識して、自身の知識を体系化し、自学自修していく方法や力を身につける。

【講義概要】

1．神経系の構造と機能について理解し、各区分の名称やつながりを説明できる。
2．感覚器の構造と機能について理解し、各部位の名称やつながりを説明できる。
3．第2期後半からは演習問題を解きながら、1年生から学んできた解剖学的知識を復習し整理していく。

【成績評価方法】

定期試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。
不合格の場合、再追試験を行う。
最終成績は第1期と第2期の成績を平均する。

【授業の特徴・形式】

講義形式で行うので、講義に出席して、各項目の基礎知識を学ぶ。
予習では講義範囲を通読する。復習では講義内容の理解に努める。
第2期の後半からは、第1章から順に演習問題を解きながら、各自が有する解剖学的知識を再確認し復習を進める。
定期試験や演習問題は資格試験に準拠した多枝選択問題で行う。

【教科書・参考書】

教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	神経系の基礎1（神経系の区分、神経組織） p217～220	講義
2	神経系の基礎2（中枢神経系の区分、脳室系、髄膜） p220～223	講義
3	脳の形態と機能1（終脳） p223～225	講義
4	脳の形態と機能2（終脳・間脳） p226～227	講義
5	脳の形態と機能3（中脳・橋） p227～228	講義
6	脳の形態と機能4（橋・小脳） p228～230	講義
7	脳の形態と機能5（延髄） p228～229	講義
8	脊髄1（区分、内部構造、反射路） p230～233	講義
9	脊髄2（上行性・下行性伝導路） p233～238	講義
10	脳神経1（嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経） p239～242	講義
11	脳神経2（三叉神経、顔面神経、内耳神経） p241～243	講義
12	脳神経3（舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経） p243～245	講義
13	自律神経1（総論、副交感神経系） p256～259	講義
14	自律神経2（交感神経系） p256～259	講義
15	第1期試験の解説	講義
16	脊髄神経1（総論、頸神経叢） p245～247	講義
17	脊髄神経2（腕神経叢） p247～250	講義
18	脊髄神経3（肋間神経、腰神経叢） p250～252	講義
19	脊髄神経4（仙骨神経叢、陰部神経叢） p252～256	講義
20	感覚器1（外皮、筋紡錘など） p261～265	講義
21	感覚器2（視覚器） p265～270	講義
22	感覚器3（平衡・聴覚器、味覚器、嗅覚器） p270～274	講義
23	人体解剖学概説（細胞、組織、発生、人体区分） p1～16	講義
24	運動系1（上肢・体幹の骨格系・関節） p21～46	講義
25	運動系2（下肢・頭蓋の骨格系・関節） p46～70	講義
26	内蔵系1（消化器） p157～177	講義
27	脈管系1（総論、心臓、動脈系） p123～145	講義
28	脈管系2（静脈系、胎児循環、リンパ系） p145～156	講義
29	映像解剖 p297～304	講義
30	第2期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	今 田 正 人	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	解剖学④	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
各器官系の知識を整理し、人体への理解を深める。
各自が有する解剖学的知識を再確認する。
自身の有する知識を資格試験に応用する考え方を身につける。

【講義概要】
項目毎に、演習問題とその解説を行うことで知識の整理と復習を行っていく。

【成績評価方法】
定期試験の点数で評価する（100点満点で評価し、60点以上を合格とする）。
不合格の場合、再追試験を行う。

【授業の特徴・形式】
講義形式で行うので、毎回講義に出席して、各項目の基礎知識を復習する。
予習では講義範囲を通読する。復習では講義内容の理解に努める。
各自が学習した知識を体系化し、項目毎に形態と機能をまとめる。
第2期の後半から行ってきた復習の残りを順に演習問題を解きながら、進める。
定期試験や演習問題は資格試験に準拠した多枝選択問題で行う。

【教科書・参考書】
教科書：解剖学（第2版、医歯薬出版）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	内蔵系2(呼吸器) p177～186	講義
2	運動系3(頭頸部・腹部・背部・上肢の筋系) p70～97	講義
3	運動系4(上肢・下肢の筋系) p97～122	講義
4	内蔵系3(泌尿器) p186～192	講義
5	内分泌系 p207～215	講義
6	内蔵系4(生殖器) p192～205	講義
7	体表解剖 p17～20 p275～296	講義
8	第3期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第1期、2期	坪井　美行	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	生理学②	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・生殖に関わるホルモン作用について説明できる。
・骨の形成、リモデリングについて説明できる。
・神経、脳機能が説明できる。
・感覚、運動機能が説明できる。

【講義概要】
生理学は、我々の体がどのようなメカニズムで活動し、また制御されているのかを勉強する学問です。学んだ知識は自分の生活に当てはめて、振り返ってください。第1期では、筋、神経の生理学を中心に学び、脳神経の機能や運動の調節機能などが説明できるようになることを目標とします。第2期では、運動と感覚の生理学について学びます。教科書を中心に授業を行います。授業中に問題を出し、理解を深めていきます。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・生理学　改訂第4版　公益社団法人　全国柔道整復学校協会　監修
・カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 第4版　日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	4/9 火 ・生殖：性分化と生殖器 P103～107	講義
2	4/16 火 ・生殖：性周期 P107～110	講義
3	4/23 火 ・生殖：妊娠と分娩 P110～114	講義
4	5/7 火 ・骨の生理学：骨のカルシウム代謝の調節 P133～136	講義
5	5/14 火 ・骨の生理学：骨の構造と骨形成、骨吸収 P136～138	講義
6	5/21 火 ・筋の生理学：骨格筋の構造と収縮機構 P11～15	講義
7	5/28 火 ・筋の生理学：骨格筋線維の分類、筋電図 P15～20	講義
8	6/4 火 ・筋の生理学：心筋・平滑筋の機能 P20～21	講義
9	6/11 火 ・神経の生理学：静止膜電位と活動電位 P23～26	講義
10	6/18 火 ・神経の生理学：活動電位の伝導とシナプ伝達 P26～30	講義
11	6/25 火 ・神経の生理学：脳の高次機能 睡眠と覚醒 P30～35	講義
12	7/2 火 ・神経の生理学：脳の高次機能 記憶と学習 P35～37	講義
13	7/9 火 ・神経の生理学：自律神経の構成 P37～41	講義
14	7/16 火 ・神経の生理学：自律神経の構成 P41～42	講義
15	7/30 火 ・定期試験 解説	講義
16	8/27 火 ・運動の生理学：運動の調節、運動単位 P43～47	講義
17	9/3 火 ・運動の生理学：脊髄反射 P47～52	講義
18	9/10 火 ・運動の生理学：脳幹による運動調節 P53～55	講義
19	9/17 火 ・運動の生理学：高次脳による運動調節 大脳基底核、小脳 P55～58	講義
20	9/24 火 ・感覚の生理学：感覚の分類 P59～61	講義
21	10/1 火 ・感覚の生理学：視覚 P62～67	講義
22	10/8 火 ・感覚の生理学：聴覚 P67～70	講義
23	10/15 火 ・感覚の生理学：平衡感覚 P70～72	講義
24	10/22 火 ・感覚の生理学：味覚・嗅覚 P72～74	講義
25	10/29 火 ・感覚の生理学：皮膚感覚 P74～77	講義
26	11/5 火 ・感覚の生理学：深部感覚 P77～78	講義
27	11/12 火 ・感覚の生理学：内臓器感覚 P78～79	講義
28	11/19 火 ・感覚の生理学：痛みの分類 P79～81	講義
29	11/26 火 ・感覚の生理学：痛みの伝導路と痛覚の抑制システム P81～P82	講義
30	12/10 火 ・定期試験 解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	坪井 美行	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	競技者の生理	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・成長発育を説明できる。
・発育と運動機能、循環、呼吸機能の関係を説明できる。
・効果的なトレーニングを説明できる。

【講義概要】
競技者の生理学では、身体の発達と身体的能力の高いスポーツアスリートの生理学的特徴を学びます。将来、競技者の治療を行う時の正常時の生理学的特徴を理解することを目標にします。学んだ知識は自分の生活に当てはめて、比較してみてください。国家試験対策も併せて行います。難しい単語や聞いたこともない言葉が数多く出てくるので、しっかり復習して単語の意味を理解し覚えてください。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、課題提出を実施し、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・生理学　改訂第4版　公益社団法人　全国柔道整復学校協会　監修
・カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版 第4版　日本医事新報社

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	1/9　木 ・少年期から青年期の発育特性：発育曲線 P235～236	講義
2	1/16　木 ・骨格筋の発育の特徴 P236～238	講義
3	1/23　木 ・骨格筋の筋力の発達 P239～240	講義
4	1/30　木 ・発育と呼吸・循環機能と運動 P240	講義
5	2/6　木 ・発育と運動：運動不足と過運動 P241～244	講義
6	2/13　木 ・トレーニングの効果：筋・心肺・神経機構の変化 P244～248	講義
7	2/20　木 ・トレーニングの効果：姿勢調節能力の変化 P248～251	講義
8	3/6　木 ・定期試験の解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期、2期	国田 朱子	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	病理学概論	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・病理学は"見る"事により病気を理解する学問です。授業ではプリントを使って教科書の内容をできるだけわかりやすく講義します。
・病気を理解する為には正常の体の理解が前提となりますので解剖学、生理学の知識も重要です。合わせて勉強して理解を深めましょう。

【講義概要】
・病気の理解に必要な用語の定義を理解する。(例:病理学とは？腫瘍とは？)
・病気の理解に必要な用語の分類を理解する。
・細胞レベルで病気を理解する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・はじめの一歩の病理学　羊土社

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容		備考
1	病理学とは・疾病の一般	1～6 1. 病理学とは 2. 疾病の一般 A. 疾病の意義と分類	講義
2	疾病の一般・細胞傷害	7～12 2B. 症候の意義と分類 C. 疾病の経過、予後、転帰 3A. 細胞傷害の定義 B. 萎縮	講義
3	細胞傷害	12～17 C.変性 D.代謝障害と疾病	講義
4	細胞傷害	17～22 D.代謝障害と疾病	講義
5	細胞傷害	23～27 E.壊死 F.死	講義
6	循環障害	29～33 A. 血液の循環障害 1. 充血 2. うっ血 3. 虚血	講義
7	循環障害	33～38 4. 出血 5. 血栓症	講義
8	循環障害	39～44 6. 塞栓症 7. 梗塞 B. リンパ液の循環障害	講義
9	循環障害	44～49 C.脱水症 D. 高血圧症 A. 進行性病変の定義	講義
10	進行性病変と細胞・組織の適応	50～56 B. 肥大、過形成、C. 再生 D. 化生 E. 創傷治癒、組織内異物の処理	講義
11	進行性病変と細胞・組織の適応	57～62 F. 移植 A. 炎症の一般	講義
12	炎症	63～65 A. 炎症の一般	講義
13	炎症	66～70 B. 炎症の分類	講義
14	前半のまとめ		講義
15	試験解説		講義
16	免疫異常、アレルギー	71～74 7A. 免疫の仕組み	講義
17	免疫異常、アレルギー	75～80 7B. 免疫不全 7C. 自己免疫疾患	講義
18	免疫異常、アレルギー	81～84 7D. アレルギー	講義
19	腫瘍	85～90 8A. 腫瘍の概念 1. 腫瘍の定義 2. 肉眼的形態 3. 腫瘍細胞	講義
20	腫瘍	91～97 4. 腫瘍の組織構造 5. 腫瘍の発育諸段階 6. 生体への影響 7. 発癌の原因	講義
21	腫瘍	98～103 8. 癌の診断と治療 B. 腫瘍の分類 1. 良性腫瘍	講義
22	腫瘍	104～109 2. 悪性腫瘍	講義
23	腫瘍、先天性異常	110～114 3. 主要な癌 9A. 先天性異常：総論	講義
24	先天性異常	115～120 B. 奇形の原因	講義
25	先天性異常	121～126 C. 奇形成立の時期 D. 奇形の種類	講義
26	病因	127～132 10A. 病因の一般 B. 内因	講義
27	病因	133～140 C. 外因 1, 栄養障害 2. 物理的外因	講義
28	病因	141～150 3 化学的外因 4. 生物学的外因	講義
29	後半のまとめ		講義
30	試験解説		講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第1期、2期	佐藤　卓弥	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	運動学	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
- 身体運動の基礎を理解するため，身体運動と力学，運動器と神経系の構造・機能，各関節の形状・名称・筋肉・運動について学習する.
- 身体運動を理解するため，基本的な運動・動作，姿勢，歩行，走行について学習する.
- 授業は講義を中心とし，骨関節では骨模型を使用し，理解を深める.

【講義概要】
- 上記到達目標とテーマに従い，授業は講義を中心とし，必要に応じて質疑応答形式を施行する
- 筋骨格系の構造と機能，関節の概要を述べることができる
- 姿勢と運動，歩行・走行の概要を述べることができる

【成績評価方法】
- 定期試験【100%】にて評価する
- 100点満点で評価し，60点以上で合格とする
- 単位取得に満たない(不合格)生徒には，補講，補習，課題提出を実施し，追再試験を実施する

【授業の特徴・形式】
- 講義形式とする
- 資料を配布し，同内容をスライドで投映して口頭で解説する

【教科書・参考書】
- 運動学　医歯薬出版株式会社

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	運動学の目的，運動の表し方p.1-8	講義
2	身体運動と力学(1) p.9-22	講義
3	身体運動と力学(2) p.9-22	講義
4	運動器の構造と機能(1) p.23-40	講義
5	運動器の構造と機能(2) p.23-40	講義
6	神経の構造と機能(1) p.41-50	講義
7	神経の構造と機能(2) p.41-50	講義
8	運動感覚 p.51-56	講義
9	反射と随意運動(1) p.57-68	講義
10	反射と随意運動(2) p.57-68	講義
11	上肢帯の運動 p.69-77	講義
12	肩関節の運動 p.78-86	講義
13	肘関節と前腕の運動(1) p.87-94	講義
14	肘関節と前腕の運動(2) p.87-94	講義
15	手関節と手の運動 p.95-113	講義
16	股関節の運動 p.114-124	講義
17	膝関節の運動 p.125-130	講義
18	足関節と足部の運動 p.131-145	講義
19	体幹と脊柱の運動 p.146-150	講義
20	頚椎の運動 p.151-160	講義
21	胸椎と胸郭の運動 p.161-166	講義
22	腰椎・仙椎および骨盤の運動 p.167-172	講義
23	顔面および頭部の運動 p.173-177	講義
24	姿勢 177-189	講義
25	歩行(歩行周期，運動学的分析) p.190-196	講義
26	歩行(歩行の運動力学的分析，筋活動) p.197-203	講義
27	歩行(歩行のエネルギー代謝，走行，異常歩行) p.204-212	講義
28	運動発達 p.213-224	講義
29	運動学習 p.225-230	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第1期、2期	有馬宏昌	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技③	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・各部骨折の病態・発生機序・症状等を理解する。

【講義概要】
・教科書に記載されている理論と臨床現場においての処置等、理論に沿ってしっかりとした技術習得並びに重要項目をしっかりと習得できるように指導する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・定期試験は100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。
・都度、実技指導も行う。

【教科書・参考書】
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	前腕骨近位部の骨折　橈骨近位端部骨折	実技
2	前腕骨近位部の骨折　肘頭骨折	実技
3	前腕骨骨幹部骨折　橈骨骨幹部骨折	実技
4	前腕骨骨幹部骨折　ガレアジ骨折（逆モンテギア骨折）	実技
5	前腕骨骨幹部骨折　尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折	実技
6	前腕骨骨幹部骨折　橈・尺両骨骨幹部骨折	実技
7	前腕骨骨幹部骨折　橈・尺両骨骨幹部骨折	実技
8	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
9	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
10	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
11	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
12	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
13	前腕骨遠位端部骨折　橈骨遠位端部骨折	実技
14	復習	実技
15	試験解説	実技
16	手根骨部の骨折　舟状骨骨折	実技
17	手根骨部の骨折　三角骨骨折	実技
18	手根骨部の骨折　有鉤骨骨折	実技
19	手根骨部の骨折　豆状骨骨折、その他の手根骨骨折	実技
20	中手骨部の骨折　中手骨骨頭部骨折	実技
21	中手骨部の骨折　中手骨頸部骨折（ボクサー骨折またはパンチ骨折）	実技
22	中手骨部の骨折　中手骨骨幹部骨折	実技
23	中手骨部の骨折　中手骨骨幹部骨折	実技
24	中手骨部の骨折　第1中手骨基部骨折・第5中手骨基部骨折	実技
25	中手骨部の骨折　第1中手骨基部骨折・第5中手骨基部骨折	実技
26	指骨の骨折　基節骨骨折	実技
27	指骨の骨折　中節骨骨折	実技
28	指骨の骨折　末節骨骨折　マレットフィンガー	実技
29	復習	実技
30	定期試験	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期	◎福岡 孝俊 有馬 宏昌	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技④	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

各軟部組織損傷の特徴から治療法までの知識を習得し、柔道整復師として臨床上必要な技術を学ぶ。

【講義概要】

プリントを主体とし、臨床を通して理解を深められるよう実技を交えて進めていく。

【成績評価方法】

・定期試験【100%】にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。
・穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていく。
・毎回、授業の最初に前回講義分の確認テストを行い復習する。

【教科書・参考書】

・柔道整復学(理論編)
・柔道整復学(実技編)

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	各論　軟部組織損傷　股関節の軟部組織損傷　P380～383	実技
2	各論　軟部組織損傷　大腿部の軟部組織損傷　P383～386	実技
3	各論　軟部組織損傷　大腿部の軟部組織損傷	実技
4	各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷　P386～394	実技
5	各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷　P386～394	実技
6	各論　軟部組織損傷　膝関節部の軟部組織損傷	実技
7	各論　軟部組織損傷　下腿部の軟部組織損傷　P394～396	実技
8	各論　軟部組織損傷　下腿部の軟部組織損傷	実技
9	各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷　P396～402	実技
10	各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷　P396～402	実技
11	各論　軟部組織損傷　足関節部の軟部組織損傷	実技
12	各論　軟部組織損傷　足・趾部の軟部組織損傷　P402～406	実技
13	各論　軟部組織損傷　足・趾部の軟部組織損傷	実技
14	下肢軟部組織損傷の総復習	実技
15	定期試験解説	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第2期	◎福岡 孝俊 川上智志	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑤	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

各軟部組織損傷の特徴から治療法までの知識を習得し、柔道整復師として臨床上必要な技術を学ぶ。

【講義概要】

プリントを主体とし、臨床を通して理解を深められるよう実技を交えて進めていく。

【成績評価方法】

・定期試験【100%】にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・単位取得に満たない(不合格)生徒には、追再試験を実施する。

【授業の特徴・形式】

・講義形式を基本とする。
・穴埋め式プリントを配布し、スクリーンを中心に進めていく。
・毎回、授業の最初に前回講義分の確認テストを行い復習する。

【教科書・参考書】

・柔道整復学(理論編)
・柔道整復学(実技編)

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	各論　軟部組織損傷　頭部･顔面部の軟部組織損傷　P337～339	講義
2	各論　軟部組織損傷　頸部の軟部組織損傷　P339～342	講義
3	各論　軟部組織損傷　胸･背部の軟部組織損傷　P342～345	講義
4	各論　軟部組織損傷　腰部の軟部組織損傷　P345～349	講義
5	各論　軟部組織損傷　肩関節部の軟部組織損傷　P350～360	講義
6	各論　軟部組織損傷　肩関節部の軟部組織損傷　P350～360	講義
7	各論　軟部組織損傷　上腕部の軟部組織損傷　P360～361	講義
8	各論　軟部組織損傷　肘関節部の軟部組織損傷　P361～365	講義
9	各論　軟部組織損傷　前腕部の軟部組織損傷　P365～369	講義
10	各論　軟部組織損傷　前腕部の軟部組織損傷	実技
11	各論　軟部組織損傷　手部･指部の軟部組織損傷　P373～379	講義
12	各論　軟部組織損傷　手部･指部の軟部組織損傷	実技
13	頭部･体幹軟部組織損傷の総復習	講義
14	上肢軟部組織損傷の総復習	講義
15	定期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	昼間部(午前)
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第1期、2期	◎菊地 正　〇荒井 一彦	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技⑥	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
・骨盤・下肢骨折を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。
・各骨折を理論的、実践的に学び、臨床現場に活用できる知識と技術を習得する。

【講義概要】
・骨模型や立体図を使用し骨折を立体的に理解するよう進めていく。
・演習にて実践的に学び、術者と患者の立場になり学べるように進めていく。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・60点に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施することがある。
・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、
不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。
・教科書を中心に、補足資料を配布してすすめていく。

【教科書・参考書】
・柔道整復学 理論編（第7版）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	下肢の解剖・骨盤骨折	実技
2	骨盤骨折(診察方法・応急処置)	実技
3	下肢の解剖・大腿骨骨折	実技
4	下肢の解剖・大腿骨骨折(診察方法・応急処置)	実技
5	大腿骨骨折	実技
6	大腿骨骨折(診察方法・応急処置)	実技
7	大腿骨骨折(整復)	実技
8	大腿骨骨折(固定具作成)	実技
9	大腿骨骨折(固定法練習)	実技
10	大腿骨骨折(後療法)	実技
11	膝蓋骨骨折(診察方法・応急処置)	実技
12	膝蓋骨骨折(固定・後療法)	実技
13	下肢の解剖・下腿骨骨折	実技
14	下肢の解剖・下腿骨骨折(診察方法・応急処置)	実技
15	総復習(演習)	実技
16	下腿骨骨折(整復法の理解と実演)	実技
17	下腿骨骨折(整復法の練習)	実技
18	下腿骨骨折(固定具作成)	実技
19	下腿骨骨折(固定法練習)	実技
20	下腿骨骨折(固定中の後療法)	実技
21	下腿骨骨折(前期後療法)	実技
22	下腿骨骨折(後期後療法)	実技
23	下腿骨骨折(演習)	実技
24	下腿骨骨折(演習の振り返りと改善点を練習)	実技
25	下肢の解剖・足・足趾骨折	実技
26	足・足趾骨折(診察方法・応急処置)	実技
27	足・足趾骨折(整復)	実技
28	足・足趾骨折(固定法具の作成)	実技
29	足・足趾骨折(固定法練習)	実技
30	総復習(下肢骨折まとめ・整復から固定まで演習)	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2023 年度	2年生 第2期	◎紺野直能　吉田晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講①	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・2学年第1期までに学習した柔道整復術の内容にて技術の臨床上必要な発展学習を目的とする。

【講義概要】
・第1期にて学習した外傷施術を実践的に取り組む。
・第1期にて学習した施術方法に類似した応用的施術を考察・検討する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とす
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度および定期試験で総合的に判断し、100点満点で評価する

・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・柔道整復学　理論編　　南江堂
・柔道整復学　実技編　　南江堂

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	肩関節脱臼	実技
2	肩関節脱臼	実技
3	肩関節脱臼	実技
4	肘関節脱臼	実技
5	肘関節脱臼	実技
6	肘関節脱臼	実技
7	鎖骨骨折	実技
8	鎖骨骨折	実技
9	鎖骨骨折	実技
10	肩鎖関節脱臼	実技
11	肩鎖関節脱臼	実技
12	肩鎖関節脱臼	実技
13	PIP関節背側脱臼	実技
14	PIP関節背側脱臼	実技
15	PIP関節背側脱臼	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース（3年制）	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生　第3期	◎瀧下　晃洋　有馬　宏昌	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復実技特講②	2 単位	60 時間

【授業の到達目標およびテーマ】

調べ学習の一連の流れを通じて、情報収集能力や資料作成の手順、発表に際してのルールを身に着ける

【講義概要】

論文や医学系書籍から高度な専門知識を習得する手法を理解させ、
資料作成や発表に際しての手順やルールについても指導する

【成績評価方法】

・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び提出資料で総合判定する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】

グループ内で選択したテーマについて書籍や文献を用いて調べ学習を行う
パワーポイントやワード等の形式で内容をまとめ、作成資料に基づきクラス内で口頭発表を実施する

【教科書・参考書】

各種専門書や医学論文　図書室内の書籍等を活用する

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	ガイダンス	実技
2	演習　調べ学習１	実技
3	演習　調べ学習２	実技
4	演習　調べ学習３	実技
5	演習　発表１	実技
6	演習　発表２	実技
7	演習　発表３	実技
8	演習　学習まとめ	実技
9	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
10	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
11	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
12	前腕骨遠位端部骨折への施術	実技
13	指部の脱臼への施術	実技
14	指部の脱臼への施術	実技
15	指部の脱臼への施術	実技
16	指部の脱臼への施術	実技
17	膝部のテーピング技術	実技
18	膝部のテーピング技術	実技
19	膝部のテーピング技術	実技
20	膝部のテーピング技術	実技
21	足部のテーピング技術	実技
22	足部のテーピング技術	実技
23	上腕骨外科頚骨折への施術	実技
24	上腕骨外科頚骨折への施術	実技
25	上腕骨外科頚骨折への施術	実技
26	上腕骨外科頚骨折への施術	実技
27	顎関節脱臼への施術	実技
28	顎関節脱臼への施術	実技
29	顎関節脱臼への施術	実技
30	顎関節脱臼への施術	実技
31	下腿骨の骨折への施術	実技
32	下腿骨の骨折への施術	実技

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期	吉田 晋	
講義区分	授業科目名		
専門分野	柔道整復術の臨床判定	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】

・柔道整復師の施術を求めて来所する患者さんは外傷に起因する疼痛、その他の訴えがある。その中には非外傷性由来の疼痛・症状も含まれることがある。これらを適切に除外するだけでなく、柔道整復師としての特徴・限界を知り、症状や所見を厳密に判断して最適な治療環境が選択できることが重要である。
講義では実際に皆が臨床現場で遭遇した際に必要な知識・情報を提供する。

【講義概要】

① 配布プリントの赤字だけを理解するのではなく、前後の文章が理解できるようにする。
② 必要に応じて適宜、ワークタイムを設ける
③ 柔道整復術の適否をできる基礎となる講義を行う。

【成績評価方法】

① 定期試験→70% 中間考査→30% 合計100%とし、60点以上を合格とする。
② 不合格者（60点未満）の者には補習受講し、再試験の受験により最終評価とする。

【授業の特徴・形式】

・柔道整復師の施術を求めて来所する患者さんは外傷に起因する疼痛、その他の訴えがある。その中には非外傷性由来の疼痛・症状も含まれることがある。これらを適切に除外するだけでなく、柔道整復師としての特徴・限界を知り、症状や所見を厳密に判断して最適な治療環境が選択できることが重要である。
講義では実際に皆が臨床現場で遭遇した際に必要な知識・情報を提供する。

【教科書・参考書】

全国柔道整復学校協会 監修 施術の適応と医用画像の理解

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	1章 柔道整復術の適否を考える（P.1～6）	講義
2	1章 柔道整復術の適否を考える～2章 損傷に類似した症状を示す疾患（P.7～13）	講義
3	2章 損傷に類似した症状を示す疾患（P.8～15）	講義
4	2章 損傷に類似した症状を示す疾患（P.16～21）	講義
5	3章 血流障害を伴う損傷（P.23～28）	講義
6	3章 血流障害を伴う損傷（P.29～35）、小テスト	講義
7	3章 血流障害を伴う損傷（P.36）～5章 脱臼骨折～6章 外出血を伴う損傷（P.42）	講義
8	6章 外出血を伴う損傷（P.43～48）	講義
9	7章 病的骨折および脱臼（P.49）～8章 意識障害を伴う損傷（P.55）	講義
10	8章 意識障害を伴う損傷（P.56）～9章 脊髄症状のある損傷（P.63）	講義
11	9章 脊髄症状のある損傷（P.64）～10章 呼吸運動を伴う損傷（P.70）	講義
12	10章 呼吸運動を伴う損傷（P.71）～11章 内臓損傷の合併が疑われる損傷（P.75）	講義
13	11章 内臓損傷の合併が疑われる損傷（P.75）～12章 高エネルギー外傷（～P.81）	講義
14	総復習	講義
15	試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1期、2期	菊地 正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	外傷の保存療法	1 単位	15 時間

【授業の到達目標およびテーマ】
柔道整復師の業務を理解し、外傷発生時の対応から保存療法から後療法または治癒までの経過を判断し、
治癒計画を組み立てられるように学ぶ。
柔道整復師の業務範囲外の患者に対して、適切に医療機関と協力できるよう、それぞれの領域を意識して連携について理解する。

【講義概要】
・スライドを用いて解説し、配布プリントに理解した内容を記述する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。
・60点に満たない生徒には、補講、補習、課題提出を実施し、追再試験を実施することがある。
・授業態度については、授業とは関係ない私語、電子機器の操作、無断の入退室など、
不適切な授業態度がみられる者について10%の範囲内で減点法にて評価に加える。

【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。
・教科書を中心に、補足資料を配布してすすめていく。

【教科書・参考書】
・柔道整復学 実技編（改訂第２版）

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	柔道整復術とは	講義
2	損傷の診察、鑑別診断、合併症の有無を判定する	講義
3	その他の治療法に関する情報の提示、説明と同意	講義
4	徒手整復、固定法、整復固定後の確認	講義
5	医科との連携、固定期間の検討	講義
6	後療法、治癒の判定	講義
7	注意事項、指導管理、予後、痛みを訴える患者の診察をするときの考え方	講義
8	総復習	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第1・2期	平井　隆文	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	整形外科学	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復は外傷による運動器損傷を取り扱うことを業務としている。これに対して広く運動器疾患を取り扱うのが整形外科学であるため、外傷以外の運動器疾患の診断と治療を中心とし、その類似性と相違について理解する。
・整形外科に必要な知識を学習し、柔道整復学への発展的学習につなげる。

【講義概要】
・整形外科の意義、内容を理解
・整形外科特有な診察法、検査法、及び画像診断の概要を知り、簡単な検査法を実践する。
・観血療法の種類及びその適応について理解する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とす
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・整形外科学　南江堂
・標準整形外科学　医学書院

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	整形外科の意義、内容、歴史	講義
2	骨の基礎知識	講義
3	関節の基礎知識	講義
4	筋・神経の基礎知識	講義
5	姿勢・バランス	講義
6	上肢長・下肢長・周径	講義
7	跛行・関節拘縮と強直	講義
8	徒手筋力テスト・知覚の診断・反射	講義
9	各種画像診断	講義
10	保存療法	講義
11	観血療法	講義
12	骨折総論・スポーツ外傷	講義
13	骨折総論・スポーツ外傷	講義
14	各種リハビリテーション	講義
15	まとめ	講義
16	感染性疾患	講義
17	骨・軟部腫瘍	講義
18	非感染性軟部・骨関節疾患	講義
19	全身性骨・軟部疾患	講義
20	骨端症	講義
21	四肢循環障害	講義
22	神経・筋疾患	講義
23	神経・筋疾患	講義
24	体幹部の疾患	講義
25	体幹部の疾患	講義
26	上肢部の疾患	講義
27	上肢部の疾患	講義
28	下肢部の疾患	講義
29	下肢部の疾患	講義
30	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	平井 隆文	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道整復術の適応	2 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師が業務を行うにあたり、患者に対する医療安全の観点から、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断し、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。

【講義概要】
・整形外科領域の疾患と柔道整復術領域の外傷の違いを理解する。
・各病態を理解し放置した場合の合併症・危険性を理解する。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とす
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状況及び出席状況によりまとめる。
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
・医療の中の柔道整復　　南江堂

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	柔道整復術の適否を考える、損傷に類似した症状を示す疾患	講義
2	損傷に類似した症状を示す疾患	講義
3	血流障害と伴う損傷	講義
4	末梢神経損傷を伴う損傷	講義
5	脱臼骨折	講義
6	外出血を伴う損傷	講義
7	病的骨折および脱臼	講義
8	病的骨折および脱臼	講義
9	意識障害を伴う損傷	講義
10	脊髄症状のある損傷	講義
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
13	高エネルギー外傷	講義
14	高エネルギー外傷	講義
15	まとめ	講義
16	まとめ	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	紺野 直能	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	柔道②	1 単位 15 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
柔道の基本動作と対人技能の基礎を確実に身につけ、それらを用いた攻防ができるようなレベルに達し、礼法、受身、投の形の理合を理解し、認定実技審査に合格できるようにする。

【講義概要】
武道は武技、武術から発生した我が国伝統の文化であることから、柔道によって日本文化を知ること。また、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手と攻防することによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、武道に積極的に取り組むことを通じて、武道の伝統的な考えを理解し、相手を尊重して稽古や試合ができるようにする。

【成績評価方法】
評価項目：授業意欲、、実技試験、（レポート）。
評価割合：授業意欲、態度５０％、実技試験５０％の合計１００％
※出席回数（各学期にて２回以上欠席は試験の受験資格を認めない。）

【授業の特徴・形式】
柔道実技（礼法、受身、基本動作、打込、投込、乱取、固技、投技、投の形）

【教科書・参考書】
柔道　（南江堂）

【 講義の内容・日程 】

回	講義内容	備考
1	「投の形」の歴史とその意義	実技
2	「投の形」における手技 （浮落、背負投、肩車）の理論と実践	実技
3	「投の形」における腰技 （浮腰、払腰、釣込腰）の理論と実践	実技
4	「投の形」における足技 （送足払、支釣込足、内股）の理論と実践	実技
5	「投の形」における （手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
6	「投の形」における （手技・腰技・足技）の理論と実践	実技
7	基本動作、打ち込み、立技、固技の乱取り稽古	実技
8	「投の形」における （手技・腰技・足技）の理論と実践	実技

東京柔道整復専門学校(2024)

開講過程	開講学科	コース	部別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年生)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 1･2期	澤田海彦	
講義区分	授業科目名		
基礎分野･専門分野	一般臨床医学①	2 単位 60 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・患者の訴え・徴候・身体所見から患者の病状を理解できるようになるために、
　病歴の聴取方法、診察方法を習得し、得られた身体所見の表現法を身につける。
・柔道整復師として患者の健康状態を正しく理解し、治療できるようになるために、
　各臓器に起こる代表的な疾患の基礎的知識を習得する。

【講義概要】
1．医療面接ができる。　2．基本的な診察ができる。3．患者の診察所見を医学用語で記載できる。
　4．患者に見られた病的な身体所見の病態を説明できる。
5.各臓器に起こる代表的な疾患の5-1．原因を列挙することができる。5-2．病態を述べることができる。
　5-3．徴候を列挙することができる。

【成績評価方法】
・定期試験にて評価する。
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
【使用教科書】『一般臨床医学　改訂第３版』　全国柔道整復学校協会編　（医歯薬出版）
「生理学　改訂第４版」
「診察と手技がみえる」　メディクメディア
「病気が見える　1　～8」　メディクメディア

【 講義の内容・日程 】

回	実施日	講義内容	備考
1	4/10 水	1 診察概論・各論 A. 医療面接 B 視診:1. 意義と方法 2. 体格・体型 3. 体位・姿勢	講義
2	4/17 水	2 B 視診: 4. 栄養状態 5. 精神状態 6.異常運動 7. 歩行	講義
3	4/24 水	3 B 視診 8.皮膚 9頭部、顔面 10.頸部、	講義
4	5/8 水	4 B 視診: 11.胸部 12.腹部 13.背部、腰部 14.四肢	講義
5	5/15 水	5 C&D. 打診 &聴診	講義
6	5/22 水	6 E. 触診	講義
7	5/29 水	7 F. 生命徴候	講義
8	6/5 水	8 G&H. 感覚検査 & 反射検査	講義
9	6/19 水	9 I 代表的な臨床症状	講義
10	6/19 水	10 3.検査法	講義
11	6/26 水	11 A. 呼吸器疾患(1)	講義
12	7/3 水	12 A. 呼吸器疾患(2)	講義
13	7/10 水	13 A. 呼吸器疾患 (3)	講義
14	7/17 水	14 総まとめ	講義
15	7/31 水	15 定期試験解説	講義
16	8/28 水	16 B. 循環器疾患(1)	講義
17	9/4 水	17 B. 循環器疾患(2)	講義
18	9/11 水	18 B. 循環器疾患(3)	講義
19	9/18 水	19 C. 消化器疾患(1)	講義
20	9/25 水	20 C. 消化器疾患(2)	講義
21	10/2 水	21 C. 消化器疾患(3)	講義
22	10/9 水	22 C. 消化器疾患(4)	講義
23	10/16 水	23 D 代謝疾患(1)	講義
24	10/23 水	24 D 代謝疾患(2)	講義
25	10/30 水	25 E 内分泌疾患(1)	講義
26	11/6 水	26 E 内分泌疾患(2)	講義
27	11/13 水	27 F 血液・造血器疾患(1)	講義
28	11/20 水	28 F 血液・造血器疾患(2)	講義
29	11/27 水	29 F 血液・造血器疾患 (3)	講義
30	12/11 水	30 定期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員	
2024 年度	2年生 第3期	澤田 海彦	
講義区分	授業科目名		
専門基礎分野	一般臨床医学②	1 単位 30 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・患者の訴え・徴候・身体所見から患者の病状を理解できるようになるために、
　病歴の聴取方法、診察方法を習得し、得られた身体所見の表現法を身につける。
・柔道整復師として患者の健康状態を正しく理解し、治療できるようになるために、
　各臓器に起こる代表的な疾患の基礎的知識を習得する。

【講義概要】
1．医療面接ができる。　2．基本的な診察ができる。3．患者の診察所見を医学用語で記載できる。
　4．患者に見られた病的な身体所見の病態を説明できる。
5.各臓器に起こる代表的な疾患の5-1．原因を列挙することができる。5-2．病態を述べることができる。
　5-3．徴候を列挙することができる。

【成績評価方法】
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・単元や各授業の学習過程で、評価の３項目について、学生の良い点や進歩の状況等を評価し、その累積と定期考査の状
・具体的な評価は、授業の中での観察、課題提出等を活用して総合的に行う。
・出席率、授業態度及び定期試験で総合判定します。
・100点満点で評価し、60点以上で合格とする。

【授業の特徴・形式】
・講義形式を基本とする。

【教科書・参考書】
【使用教科書】『一般臨床医学　改訂第３版』　全国柔道整復学校協会編　（医歯薬出版）
「生理学　改訂第４版」
「診察と手技がみえる」　メディクメディア
「病気が見える　1　～８」　メディクメディア

【 講義の内容･日程 】

回	講義内容	備考
1	G　腎・尿路疾患（1）	講義
2	G　腎・尿路疾患（2）	講義
3	G　腎・尿路疾患（3）	講義
4	H　神経疾患（1）	講義
5	H　神経疾患（2）	講義
6	H　神経疾患（3）	講義
7	I　感染症（1）	講義
8	I　感染症（2）	講義
9	J　リウマチ・膠原病・アレルギー(1)	講義
10	J　リウマチ・膠原病・アレルギー　(2)	講義
11	総まとめ①	講義
12	総まとめ②	講義
13	総まとめ③	講義
14	総まとめ④	講義
15	定期試験解説	講義
16	定期試験解説	講義

東京柔道整復専門学校

開講課程	開講学科	コース	昼夜別
柔道整復専門課程	柔道整復科	柔道整復コース(3年制)	夜間部
開講年度	履修課程	担当教員(代表)	
2024 年度	2年生 第1･2･3期	◎荒井一彦、吉田晋、紺野直能、井口良平、菊地正	
講義区分	授業科目名		
専門分野	臨床実習(2年生)	2 単位 90 時間	

【授業の到達目標およびテーマ】
・柔道整復師が医療の担い手としての立場を認識し、実際の接骨院で行われる検査・処置を理解する。

【講義概要】
・A単位；学校附属臨床実習施設以外での学校指定臨床実習施設にて実践的施術を体験をする。
・B単位；スポーツ現場などでの救護活動を通じて柔道整復師としての施術を習得する。
・3年生時に行う学校附属臨床実習施設での最終臨床実習への足掛かりとし、将来につながる技術の研鑽に努める。

【成績評価方法】
・評価の観点は、授業への関心・意欲・取り組み方・態度、授業の理解と表現、知識・表現の３項目とする。
・学習過程で学生の良い点や進歩の状況等を評価し、まとめる。

【授業の特徴・形式】
・実技形式を基本とする。

【教科書・参考書】

【 講義の内容･日程 】

回	実施日	講義内容	備考
1	臨床実習方法	･各臨床実習施設毎にて実施する。	
2		･5時間18日を基本とする。	
3		･各臨床実習施設の事情を踏まえた時間配分を可能とし、合計90時間となれば可とする。	
4	A単位	附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設で実施	
5	1単位	▸附属の臨床実習施設以外の臨床実習施設の条件	
6	60時間	･臨床実習における到達目標が設定されており、これに沿って実習ができること。	
7		･施術所は5年以上の開業実績があること。	
8		･教員の資格を有する柔道整復師、又は5年以上実務に従事した後に厚生労働省の定める基	
9		準に合った「柔道整復師臨床実習指導者講習会」を修了した柔道整復師である	
10		臨床実習指導者が配置されていること。	
11		･過去1年間の施術日の平均受診者数が20名以上であること。	
12		･臨床実習の実施に関し必要な施設及び設備を利用できることができること。	
13	B単位	スポーツ大会などの救護活動	
14	1単位	▸活動の種類	
15	30時間	フットサル大会救護	
16		バスケット大会救護	
17		八丈島老人機能訓練	
18		練馬少年野球救護	
19		障がい者スポーツ救護	
20		練馬区柔道救護	
21		練馬区柔道大会救護	
22		埼玉県柔道大会救護	
23		練馬わんぱく相撲	
24			